



ニュースレター

(第18号)2005年9月1日発行

第二回 高知県家庭教育アニメーターの集い(高知市) [土佐の教育改革を中心に討議]

「第二回 高知県家庭教育アニメーターの集い」が8月17日(水曜)午後1時半より高知市東石立町の北高校で開催され、県下各地から集まった30名をこす人々が、「土佐の教育改革」で提起されている問題を中心に、家庭教育のあり方について討議し学習した。

長年、高知県の教育界で幅広く活躍されてきた野口顕二先生(前・高知県文教協会理事長)の講演「教育改革で想うこと」で幕開け。

その後、具体的な家庭教育問題として座長の廣瀬典民先生(元・県立図書館長)より「反抗期をどのように克服するか」という討議ポイントがしめされ、西岡利國先生(高知大学非常勤講師、元・中村高校教頭)を議長として(1)家庭と学校との協力関係の構築(2)教員の社会性問題とインターナシップ(3)コミュニティの教育力の活用など 多方面の意見が交わされた。

野口顕二先生の講演要旨

昭和33年(1958年)6月に県教員組合が行った勤務評定反対10割休暇闘争が、この始まりだと思うが、過去の勤務評定、学力テスト、違法スト問題などもあって何かにつけてそれに関係した教職員団体と県教育委員会の間がぎくしゃくしていた。今では想像もできないが、いろんな公務員の闘争に教員も加わり、該当者に県教育委員会は懲戒処分などを繰り返してきた経緯がある。

私は37年4月に会社員(神戸市)から高知県の公立学校教員に転職してきたが、当時の職員室の空気には異常と思えることがいくつかあつた。

「公立高校からも偏差値の高い大学に入れるようにしてほしい」、「世の中が変わったので、伸び伸びとあまり制約のない学校生活が送れるようにしてほしい」などという声もあり、その他、教育に対する不満の声は意外に大きくなってきた。

「土佐の教育改革」は、①今の制度や考えでは対処できないことができた、②将来を展望すると、現状でよいのか、こんなときに改革が必要である、などの認識

の下、橋本高知県知事の主導で始まった。平成8年6月24日、最初の会議が開かれ、メンバーは県議会各派代表、教職員団体代表、家庭の主婦など33名。会議で県教育委員会は意見を聞くという姿勢で臨み、一切発言はしなかった。

その後6ヶ月間で10回開催され、そこでの議論はすべて公開され、新聞などで報道され、さらに高知新聞社社会部教育改革取材班から「土佐の教育改革を考える」にまとめられ、平成9年9月に刊行された。

「土佐の教育改革を考える会」の提言を受けて、県教育委員会は平成8年12月19日、次の7項目の対応方針を示した(詳細は略)。



- 1 教員の資質・指導力の向上
- 2 子どもの基礎学力の定着と学力の向上
- 3 学校・家庭・地域の連携による教育力の向上
- 4 中山間地域の教育
- 5 幼(保)・小・中・高の連携教育
- 6 障害児教育
- 7 教職員団体との正常化問題

これら県教育委員会の対応方針をもとに「土佐の教育改革」が進められ、5年後の平成13年に検証が行われた。

教育改革が始まつてこれまでに学校や地域がどう変わり、成果がどのように還元されているかを調べるために、関係機関は世論調査やアンケートなどを実施し、これとともに「土佐の教育改革フォローアップ委員会」(県民参加型で進行管理を行うために設置した組織)で検証と総括が行われた。その結果の概要は以下のようである。

子どもたちの基礎学力の定着と学力の向上については、まだ多くの県民の期待に応えるものになっておらず、今後強く取り組んでいく必要があること、家庭と地域の教育力の向上を大きな柱として取り組む必要があること、また、不登校問題など子どもたちの深刻な状況に対応するため、豊かな心を育む教育などの新たな課題にも検討を加え、より一層取り組む必要がある。

「第2期 土佐の教育改革を考える会」(委員34名、4回開催)が設置され、検証と総括を行つた。そこからの提言を受けて県教育委員会が現在「第2期土佐の教育改革」として取り組んでいる項目は、以下のようになっている(詳細は略)。

- 1 子どもたちの基礎学力の定着と学力の向上
- 2 教職員の資質、指導力の向上
- 3 障害児教育の推進
- 4 豊かな心を育む教育の推進
- 5 家庭・地域の教育力の再生・向上
- 6 学校・家庭・地域の連携の強化

以上が平成9年に始まつた教育改革の一連の流れである。具体的なことは、それぞれの部署と学校で実践され、成果も上がつているようだが、問題はまだまだ山積しており、例えば、採用2年目教員の企業研修や教育関係者の不祥事事件など話題にこと欠かない。

教育改革は息の長い仕事である。橋ができた、道路がよくなつたとは違って、目に見えにくいし、ものさしも多種多様である。教育界を取り巻く私たち大勢の第三者が「良くなつた、変わってきた」と肌で感じ、話題にのぼりだしたら大成功で、その声が聞こえてくるのを待ち望んでいる。



平成21年5月までに「裁判員制度」がはじまります!

『今回、あなたは裁判員に選出されました。 つきましてはー』

こんな通知があなたの手元に、もうすぐ届くかも知れません。
この日のために「裁判員制度」について勉強しましょう。

演題:「裁判員制度」とは

講師:高知地方検察庁

日時:平成17年10月8日(土曜日)

午後3時~午後4時30分(無料)

主催:特定非営利活動法人高知県生涯学習支援センター

場所:高知市大原町132番地(教育センター分館内)

(無料駐車場あり)

竜馬のふるさと・融合フォーラム in 高知

～学社融合維新の夜明けぜよ～

「学校と地域を結ぶコーディネート力」とは

学校と社会を融合させるフォーラムが8月27日から二日間、香美郡夜須町のホテル「海辺の果樹園」で開催され、全国から約200名の参加者が学社融合について討論、情報交換などが行われました。

このフォーラムは「繋がる・そして融合する～学び、協働する喜びを感じる学校とコミュニティをコーディネートする」という主旨で平成9年(1997)以来、活動を続けていける「学校と地域の融合教育研究会」(<http://www.yu-go.info/>)が主催し、今回が9回目になります。



第一日はパネルディスカッション、トーク&トーク「はじめての学社融合」で始まりました。コーディネーターは越田 栃木県鹿沼市、パネラーは大崎 高知県教育長、矢吹日本教育新聞報道部長、藤尾 岩手県紫波町協働支援室長、木村 大阪市立南住吉小学校校長の四氏が学社融合の方向が文部科学省で打ち出されて6年になりましたが、いまだに学校と地域の協働意識が高くない点に焦点をあて討論がありました。

次いで、六グループに分かれた分科会、

①はじめての学社融合、②学社融合のコーディネートを考える、③協働で作る学校と地域の安全、④学校の自律と地域の協働、⑤学校図書館活動と読書ボランティア活動を考える、⑥学校と地域を結ぶPTA活動、おやじの会活動 では全国の実践報告に混じり、高知県からは七つの実践報告がありました。特に、「ラオスと高知を結んだ高知商業高校生徒会」の実践報告は高い評価がありました。

第二日目はパネルディスカッション 「学校と地域を結ぶコーディネート力とは」があり、宮崎 習志野市鷺沼小学校校長をコーディネーターとし、パネラーには橋本 高知県知事、岸 習志野市秋津コミュニティ顧問、前田 徳島県海部町教育長、庄子 宮城県仙台市社会福祉法人「大樹」(ビデオ参加)で、熱のこもった議論が交わされました。

最後は参加者も巻き込んでの「芸西村こどもよさこい鳴子踊り」で締めくくられ、次年度フォーラム(東京の予定)での再会を期して二日間のフォーラムが終了しました(詳細は次号以降、順次掲載の予定です)。





8月22日(月)お天気が心配されましたが、晴天の中開催することができました。

とっても暑い中、参加された方は熱心に飼育員の話しに耳を傾けていました。

飼育員の関田お姉さんから、ペンギンの種類や生態の詳しい説明を受けた後、人工飼育のピヨちゃんについてお話をありました。写真パネルと実際使用した飼育道具を見ながらの説明には、お子さんより保護者が釘付けでした。

「子どもと一緒に学ぶという良い経験が出来ました」と



いう声がこの企画をしてよかったなあと嬉しかったです。ペンギンのクララとトーマスとの写真撮影会もみなさんに喜んでいただけました。

その他、アシカプールでは、飼育員の盛田お兄さんは桂浜水族館で生まれた30頭目の赤ちゃんアシカの紹介やアザラシとアシカの違いについて、面白おかしく教えてくれました。かわうそプールでは、大町お兄さんが、かわうその乱獲について話した後、みんなが大人になってもこの話を思い出して伝えていって欲しいと話していました。イルカプールでは参加者全員がステージに上がり説明を受けた後、イルカのセイコと触れ合いました。

最後には、参加者に桂浜水族館のスタッフの方からペンギンの羽を使った「しおり」をプレゼントしていただきました。「来年は、海がめをしてや!」、「くじらのことが知りたいがつて!」…と子どもたちから来年に期待しているという声ができました。

プリザーブドフラワーを使って自由工作を作ろう。

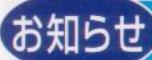


プリザーブドフラワー? グルーガン? 耳なれない自由工作? ものになるかなー、えらいこっちゃ、と思いながら参加した小学生のみなさん!

小物入れか、フォトスタンドと一緒に作りました。プリザーブドフラワーとグルーガンの取り扱い方の説明をうけた後、出来上がった見本を見せるだけでその後は参加した子どもたちにまかせました。最近は保護者の方が手を貸してしまいかがちなので、あえて見ているだけの教室にしました。子どもたちは、「どうしたらいい?」と聞きにきて、少しだけアドバイスすると「そっか!」といい自分の作品を着々と作り上げていました。保護者の方が手を貸そうとしたら、「自分でするきに見よって!」といい保護者がオロオロ。

子どもたちには、素晴らしい才能がたくさんで、同じ材料なのに個々に違った作品が出来ました。大人だったら気付かない所に視点があって、私たちの方が教わってしまった教室でした。男の子の参加もあり、本当に楽しい素晴らしい教室でした。また作りたい! 今度はいつ?と嬉しい声がありました。





家庭教育アニメータの月例会

家庭教育アニメーターは、家庭教育にご興味のある方やお悩みを抱えている方でしたらどなたでも参加できる会です。

第4回目は問題提起者として松本文彦先生をお迎えして9月21日の午後1時30分より教育センター分館南棟2階中講義室にて、教育相談の事例と相談活動の進め方について話し合います。ぜひお友達をお誘い合わせのうえ、ご参加ください。

3時からは、参加されている家庭教育ソーターの方が一般の方からの相談を受付けていますので、教育についてのご相談のある方もご参加下さい。

テーマ：教育相談の事例と相談活動の進め方
問題提起者：松本 文彦（元北高校教頭）

日 時：平成17年9月21日（水曜日）

午後1時30分～3時30分

場 所：教育センター分館 南棟2階 中講義室 駐車場有

参加費：無料

お申込み：事前申し込みが必要です。

下記の電話・FAX・電子メールにて受付けています。

TEL 088-833-0022 FAX 088-833-0023

電子メール info@kolec.jp

第3回 早期英語研究部会のお知らせ

那須恒夫教授（高知大学教育学部英語教育）を座長にお願いして、イマージョン方式などの問題を学習してきました早期英語研究部会は、今年は「日本の家庭でできる早期英語教育」をテーマに、皆さん方の経験やアイディアを交換してまいります。



ご多忙と存じますが、ぜひご参加下さい。

研究テーマ：「日本の家庭でできる早期英語教育」
アドバイザー：那須恒夫（高知大学教育学部教授 英語教育）
問題提起者：川村効子（川村英語塾代表）

日 時：平成17年10月1日（土曜日）午前10:00より

場 所：高知県高知市大原町132番地

（教育センター分館 北棟 2階 第4研修室）

参加料：無料

参加申し込み：事前に電話かメールで申し込みください。

龍馬の手紙を読もう!!

— 古文書解読の基礎講座 —

指導：岡村庄造先生（日本石仏協会理事）

受講料：各回1000円（テキスト資料代を含む）

日 時：9月24日（土曜日）午前10時より正午まで

場 所：龍馬の生まれたまち記念館（高知市上町）

講 義：古文書の豆知識

内 容：異体字、用字、用語、その使用例

実 習：墓碑、地震碑

※「生涯学習を学社融合に生かす(その2)」はKOLECニュースレター 第19号に掲載します。



発 行 2005年9月1日

NPO高知県生涯学習支援センター（KOLEC）

〒780-8031

高知市大原町132番地（教育センター分館内）

電話 088-833-0022 FAX 088-833-0023

KOLEC 電話進路相談の電話 088-833-0086

電子メール info@kolec.jp

URL http://www.kolec.jp

発行人 理事長 山本晉平

編 集 NPO KOLEC編集室/印 刷 中島出版印刷

